”岡田章先生の思い出”

心から尊敬していた岡田先生が突然逝去された。私達が日比谷高校に入学したのは1950年である。素晴らしい授業をする若い先生だった。当時１年生の数学は解析Ｉといって２次関数、数列などを習ったが、あまりの名授業に私はすっかり魅せられて、毎時間一言も聞きもらさないように必死で聞いていたら、成績表に ”授業態度真摯なり”というコメントがついてきた。ド・モアブルの定理なども教わり、指数関数と三角関数の関係、対数関数と逆三角関数の関係など高校のレベルを越えたことも教わった。対数表について質問したら、５桁対数表はガウス、６桁対数表はブレミカが良いです、と教えて下さった。後に大学に入ってからこの２つを買った。現在は電卓におよばないが、当時は大いに役にたった。

２年生になっても解析２の授業は岡田先生だったので私は喜んだ。やはり名授業で微積分などを習ったが、微分の授業は普通の高校のレベルを越えたε, δを使ったもので面白かった。また実数の連続性などの話しもしてくださった。どういうわけか３年生が半分くらい入ったクラスだった。

３年生になって幾何がまた岡田先生だったので私はまた喜んだ。やはり名授業だったが私は大学入試に選ばない科目だったのであまり勉強しなかった。

大学入試に合格して挨拶にいったら、”おめでとう、と言わないのは変なようだけど、君が入るのは当然だよ”と言われて恐縮した。

岡田先生はもと旧制一高の先生だった。大学生になっても先生を尊敬していた私は、真砂町の先生のアパートによく押し掛けるようになっていた。先生は独身だったがいつも歓迎して下さって、いろいろ面白い話しをして下さった。”白米を食べた後で外米を食べるとうまくないだろう。一高を教えた後で日比谷高校を教えると面白くない”と言ってらした。どうもすみません。一高で地球物理の小口高さんを教えて ”小口はホッケーばかりやっていて、いつ勉強しているかわからない奴だったが、試験はすごくよくできた”とおっしゃった。元国立天文台長の古在由秀さんから岡田先生に習ったと聞いたことがあるので、先生にきいたら ”覚えていない”とのことだった。一高で ”オカショウ”と呼ばれてひどく恐れられ、理科生から文科生に転向する人が続出したそうだ。しかし岡田先生を尊敬する生徒も多く、後に数学者の故及川広太郎先生などが岡田先生を囲む会を開いた、と聞いた。

大学生、大学院生になっても私は貧乏だったのでよく岡田先生からアルバイトに日比谷高校生の家庭教師を世話してもらった。普通の２倍くらい給料がもらえて有り難かった。先生は津田英語会や高田外語の講師もなさっていた。都合が悪い日があると、よく大学院生の私に代理を頼んだ。千駄ヶ谷の津田英語会の事務に行ったら、新しい生徒が来たのと間違えられた。

やはり私が大学院生のころ、日比谷高校で数学の先生が不足し、困った岡田先生は私に ”１週に１日か２日時間講師として授業をしてくれ”と頼まれた。私は秀才達を相手に岡田先生のような名授業をする自信がなかったので、お断りしてしまったが、今になってみると引き受ければ良かったと後悔している。私は先生にさんざんお世話になって私にできる恩返しはそのくらいしかなかったのである。

先生の唯一の楽しみはドライブだった。古いナッシュの車を愛用していらした。

生徒が修学旅行に行くとき、先生はこれを運転して京都、奈良についていらした。光栄なことに、吉田章宏君と私が誘われた。東名道路のない時代である。夜中の２時ごろ東京を出発して国道１号線を走った。先生は運転がうまくない。しかも乱暴で左ハンドルの外車で前がよく見えないのに追い越しが好きで、１度大型トラックに挟まれた時私は死を覚悟した。私は後部の左側に座っていたがトラックの車輪が１０ｃｍの距離に迫っていた。助手席にいた吉田君は対抗車のライトが正面に見えたのですごく怖かったそうだ。

しかも先生は旅館に泊まらず、奈良公園に車をとめて車中泊をするのだった。朝、鹿が窓から覗きに来た。先生はいつもこうするらしく、及川先生も同じ経験をしたそうだ。ともかく、生きて帰京できたのは好運だった。

私が就職して結婚したとき、結婚式に出席してスピーチをして下さった。子供が生まれた時はお祝いに銀のスプーンを下さった。私は一時千葉の稲毛に住んだが、先生はナッシュを運転して日比谷高校出身で私の家庭教師の弟子だった伊藤恵子さんと一緒に来て下さったこともある。

その後、何度もホテルのヴァイキング料理など御馳走になった。先生が日比谷高校を定年になった時挨拶状をいただいたが、”１日も欠勤しなかった”とあったので御丈夫なのだと思っていた。

定年後も毎日のようにホテルで食事するなど優雅な生活をなさっていた。”身体は大丈夫ですか？”とうかがうと、”全く元気、それに弟子に医者がいて定期的に電話してくるんだよ”とのことだった。

1983年私は病気で倒れ入院してしまう。岡田先生は２度もお見舞いに来て下さった。２度目の時、”一緒にドライブに行こう”と誘われ、”先生、私は今入院患者ですからそれは駄目です”と懸命に断った。

最期にお会いしたのは1985年ごろだったと思う。お見舞いのお礼と私の病気の説明のためだった。やはり、ホテルの昼食ヴァイキングを御馳走になってしまった。先生は全くお元気で私の病気は良くなかったので、私の方が先に死ぬと決めていた。その後私は何度も入院や手術をしたがまだ生きている。

最期に電話で話したのは昨年８月１０日である。先生はやはり非常にお元気で御病気とは思えなかった。

先生の突然の御逝去を聞いて驚き非常に悲しんでいる。そしてその悲しみは日毎に増していくのである。数学の面白さを私に教えて下さった先生、１５才の時から６０才の現在まで４５年間お世話になりっぱなしで、私は御恩に報いることができなかった。

”天文学面白いよ。行きなさい。私は印哲梵文に行きたいという奴にも行けと言ったったんだ”　私は驚いて　”先生、理学部の天文は文学部の印哲梵文ですか？”と答えたのを記憶している。1954年の秋大学２年生の私が進学に悩んでいた時である。”でも松隈先生でも一高の数学の先生をしていた。就職は厳しいよ”

私も歳をとって自分も講義するようになったが、右手に持ったチョークを顔の前に持ち上げ、それを見つめながら話している自分に気がついて、はっとすることがよくあった。これは高校３年間授業を聴いた岡田先生の癖なのである。先生は結婚なさらなかったけれど、多数の人から親のように慕われた。先生安らかにお眠り下さい。 合掌。